

調查研究 資料編

東近江市の概要

東近江市の現状

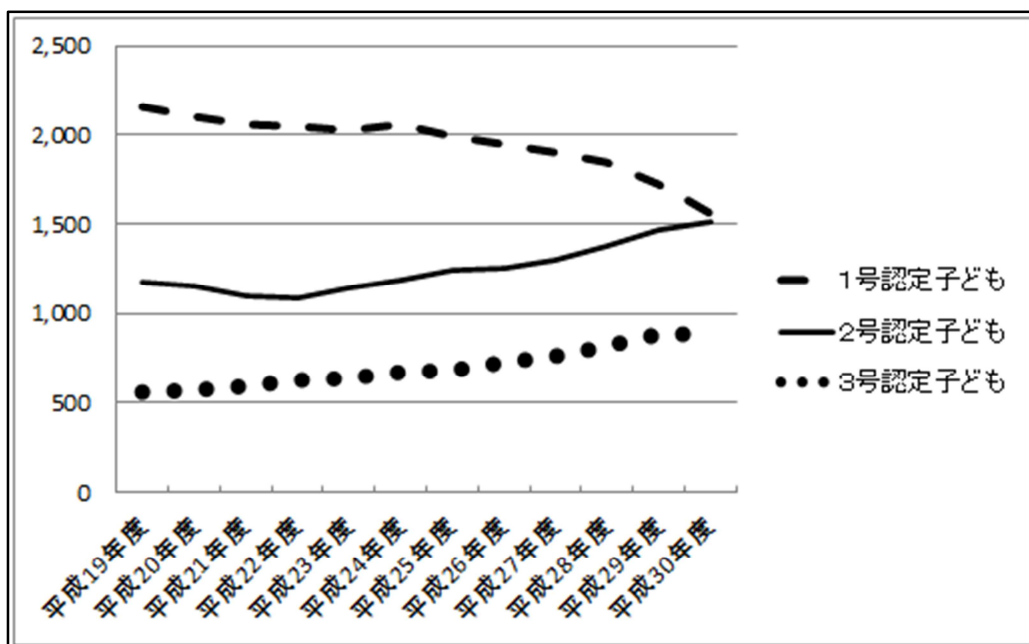
東近江市 人口 114,361人 (H31年1月7日現在)

就学前児童数 (新制度に置き換えての分類)

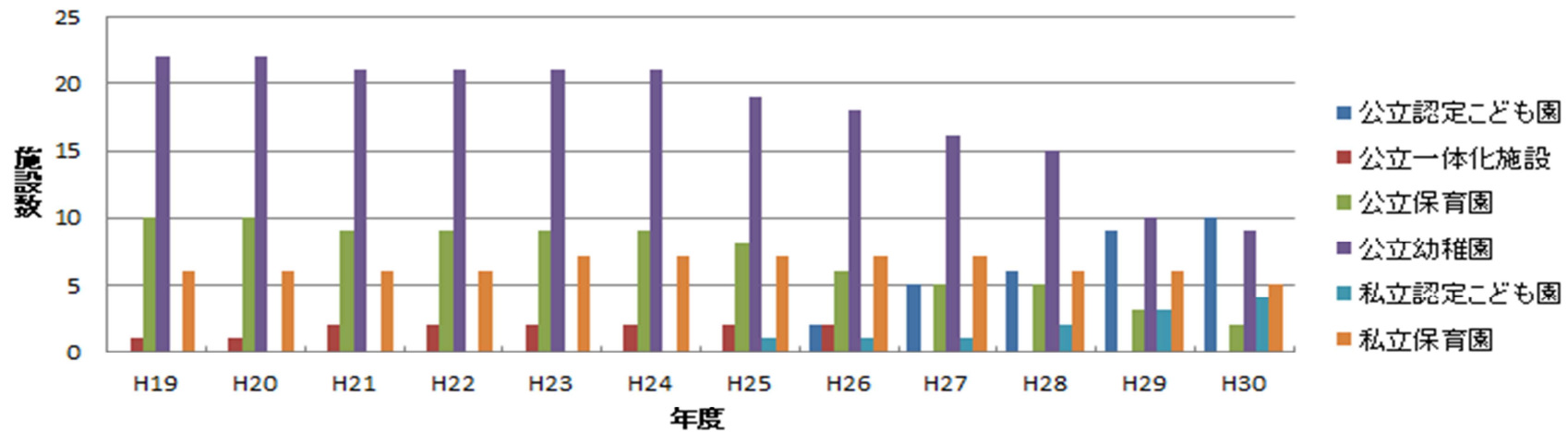
2・3号認定子ども数 (保育園・認定こども園) 2,389人 (H30.10.1)

1号認定子ども数 (幼稚園・認定こども園) 1,557人 (H30.5.1)

	1号認定子ども	2号認定子ども	3号認定子ども
平成19年度	2,162	1,180	559
平成20年度	2,100	1,151	572
平成21年度	2,062	1,091	588
平成22年度	2,053	1,089	624
平成23年度	2,022	1,136	638
平成24年度	2,061	1,188	672
平成25年度	1,998	1,238	680
平成26年度	1,953	1,252	730
平成27年度	1,907	1,301	764
平成28年度	1,848	1,375	817
平成29年度	1,723	1,462	881
平成30年度	1,557	1,509	880



幼児施設の変遷



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
公立認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	2	5	6	9	10
公立一体化施設	1	1	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0
公立保育園	10	10	9	9	9	9	8	6	5	5	3	2
公立幼稚園	22	22	21	21	21	21	19	18	16	15	10	9
私立認定こども園	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	3	4
私立保育園	6	6	6	6	7	7	7	7	7	6	6	5

幼保の一元化～量から質へ

平成 18 年度

キッズプランニング委員会にて、幼保一体化施設における園運営について検討

平成 19 年度

キッズプランニング委員会にて、教育課程および諸様式の検討

- ・五個荘地区一体化施設運営の検証
- ・東近江市就学前教育・保育検討委員会にて、就学前の子どもに関する教育保育等を総合的に提供するためのあり方を報告

平成 20 年度

沖野地区一体化施設開園

- ・教育研究所主催で保育力アップ講座の設定
- ・保育園における園内研の実施

平成 21 年度

行政の一元化

(教育課程の編成及び指導に関することを除き、幼保の業務の担当課が同じになる)

平成 22 年度

幼児教育・保育推進委員会にて、保育サービスと保育料について報告

平成 23 年度

一体化運営方針の方向性まとめ

- ・園長会が主となり、一体化運営の具体的な方向性を検討

平成 24 年度

「東近江市保育園・幼稚園一体化運営の考え方」策定

- ・施設整備及び運営の一体化を計画的に推進

平成 25 年度

園長会等の組織改編

- ・合同園長会副園長会、主任会の実施
- ・東近江市保育・教育研究会設置
- ・その他 (PTA・市指定研究会等)

平成 26 年度

東近江市認定こども園条例制定

平成 27 年度

子ども・子育て支援新制度スタート

- ・一体化施設を幼保連携型認定こども園に移行
- ・保育料の一本化
- ・幼小中連携事業スタート

平成 28 年度

文部科学省「幼児教育推進体制構築事業」受託

- ・東近江市幼児教育のあり方検討会設置

平成 30 年度

幼稚園教育要領等改訂 (定) 完全実施

東近江市のめざす子ども像(東近江市教育保育課程)

自分が好き 友達が好き みんな大好き
キラリと輝く 東近江の子

健康	人間関係	環境	言葉	表現
心身共に明るく元気な子ども	人との関わりを楽しむ子ども	身近な環境に進んで関わる子ども	聞くこと話すことの楽しさを味わえる子ども	豊かな創造性をもつ子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けた子ども ・体を動かすことを楽しみ進んで運動する子ども ・安全に必要な習慣や態度を身に付けた子ども ・何事にも意欲をもち粘り強くやり遂げる子ども ・自然に触れて伸び伸びと行動する子ども ・健康に関心をもち食事の大切さが分かる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・喜んで友達と遊べる子ども ・友達を思いやり互いに認め合う子ども ・自分の思ったことを相手に伝え相手の思いに気付ける子ども ・友達と一緒にいることを楽しみ喜びや悲しみを共感し合う子ども ・自分で考えて行動できる子ども ・様々な人に親しみをもてる子ども ・集団生活に必要なきまりを守れる子ども ・善悪の判断がつく子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりを深め感じる子ども ・身近な動植物に親しみを持ち生命の尊さに気付ける子ども ・考えたり試したりしながら工夫して遊ぶ子ども ・物を大切にしようとする子ども ・様々な文化や伝統に親しむ子ども ・数量や図形などに関心をもつ子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・親しみをもって挨拶ができる子ども ・自分の思いが伝えられる子ども ・人の話が聞ける子ども ・絵本や物語に親しむ子ども ・豊かなイメージをもち言葉で表現できる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象に感動し豊かな感性をもつ子ども ・自分の思いや感じたことを様々な方法で表現できる子ども ・自信をもって自分の思いが表現できる子ども

【東近江市教育保育課程】（総括）

0 歳 児	<p>○安全で快適な環境の中で、一人一人の様々な欲求を満たし、保育者との応答的な関わりを通して人への信頼感の基礎を育む。</p> <p>○感覚による経験を通して、外界に対する探究心を満たし、いろいろな身体活動機能を促すと共に発語への意欲を育てる。</p>
1 歳 児	<p>○保育者との安心できる関わりの中で、一人一人の欲求を満たし、情緒の安定を図る。</p> <p>○安心できる保育者との関係の下に、基本的な生活リズムを安定させ、自分でしようとする気持ちを育てる。</p> <p>○身体の様々な感覚を通して、身近な環境に自分から関わろうとする探究心を満たしながら、身体活動機能を刺激し、発語への意欲につなげる。</p>
2 歳 児	<p>○安心できる環境の中で、一人一人の欲求を十分に満たし、情緒の安定を図る。</p> <p>○安心できる保育者との関係の下に、生活に必要な身の回りの簡単なことを自分でしようとする意欲を育て、生活習慣の自立を促す。</p> <p>○保育者の仲立ちにより、いろいろな身体活動機能を使う遊びや、伸び伸びと表現することの楽しさを味わいながら、友達との関わりを楽しむ。</p>
3 歳 児	<p>○安全で快適な環境の中で、生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けようとする。</p> <p>○身近な環境に関わり、様々なことに興味をもちながら、自分の好きな遊びを十分に楽しむ。</p> <p>○安心して自分を表現し、身近な人と関わり、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</p>
4 歳 児	<p>○自分でできることに喜びを感じながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>○身近な環境に興味や関心をもって関わり、様々な活動に意欲的に取り組む。</p> <p>○様々な方法で自分を表現し、保育者や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうと共に、友達との関わりを広げる。</p>
5 歳 児	<p>○自分でできることの範囲を広げながら、仲間と一緒に楽しい生活を送る中で、自信をもって意欲的に生活する。</p> <p>○様々な環境に好奇心や探究心をもって自ら関わり、生活に取り入れていこうとする。</p> <p>○様々な方法で自己を発揮し、友達と共通の目的をもち、一緒に遊びを進めていく。</p>

人材育成のための園内体制

<体制チェックシート>

	観 点 : 項 目	有	無	「有」にした場合のポイントと 「無」を選択した場合の理由等
保 育	新規採用職員の研修体制			
	2年以上若手職員の研修体制			
	新規採用職員の公開保育			
	園内研究研修の実施			
	園内公開保育			
	園内研究の体制確立（研究主任等）			
	職員の指導体制			
	主任等管理職の指導体制			
養 護 / 給 食	園内保健指導体制			
	事故・けがの予防体制の実施			
	感染症予防の環境整備			
	園内食育体制			
	食物アレルギー園内対策会議の実施			
	給食の、安全な提供するためのチェック体制			
発 達 支 援	園内ケース検討会議			
	個別のサポートファイル指導体制			
	個別の支援計画の作成			
	個別の教育支援計画の作成			
	発達支援関連の園内研修の実施			
	コーディネーター等の指導体制			

各園の「体制チェックシート」は、園と幼児教育センターの指導員双方で評価を行うものである。推進体制事業の効果を評価するものでスタートしたところ、園長等園の管理職と同時に指導員側にもそれぞれに気づきがあり、学ぶ点があることがわかった。

「体制チェックシート」をそれぞれに評価し、評価にズレがあった項目について話し合いをもった時の聞き取り内容である。

①発達支援関連の園内研修の実施

- ・指導員が確認した時点では、個別の教育支援計画の見直しが不十分であったが、その後作成が確認できたので「有」に修正。
- ・教育支援計画、個別指導計画の作成状況が把握できないため、空欄となった。
- ・個別のケース会議を研修と思っているため、「有」を「無」に修正。
- ・発達支援関連の職員が職員会議等で伝講はするが、それを使って研修をするまでには至っていない。
- ・発達支援関連の園内研修は、現在の時点で未実施なので「無」となっていたが、年度内には実施予定であるので「有」と修正。
- ・研修を受講後、講師を頼んで勉強会の実施をしたので、「無」としていたが「有」に変更になる。

②2年以上若手職員の研修体制

- ・指導員は把握できていなかったが、対象となる職員に個別に指導案等の指導をしていたので「有」に修正。
- ・園内研究会の中で指導していることで「有」と評価している。

③個別のサポートファイルの指導体制

- ・個別のサポートファイルは希望する保護者に渡しているが、作成の説明ができていないとして「無」評価であったが、記入の説明ができていたので「有」に修正。
- ・対象となる子どもがいない。

④職員の指導体制

- ・指導員は把握できていなかったが、『10の姿』の勉強会や主任が月案・週案にコメントを入れること、主任を通して指導を入れる体制などが園長によって指導できていたので「有」に修正。
- ・職員が少ないことと、ある程度の経験者がそろっているため、任せっきりになっている。

⑤食物アレルギー園内対策会議の実施

- ・対策会議を組織しているわけではないが職員会議やクラス内でのケース会議にあげているので「有」に修正。
- ・アレルギー児が少ないことから、朝の打合せで十分である。

⑥新規採用職員の研修体制

- ・保育や指導案の指導体制はできているが、諸帳簿作成支援が不十分。

⑦新規採用職員の公開保育

- ・指導員が把握できていない園があった。

⑧主任等管理職の指導体制

- ・このチェックで園長と主任で業務を分担する必要があることに気付いた。
- ・主任としての意識を変えるのに時間がかかる。
- ・指導員が十分把握できていなかった。
- ・主任がクラス担任であるため、園長が仕事をしてしまうため「無」と判断した。

⑨コーディネーター等の指導体制

- ・質問内容の理解が2通りでき、回答しにくかった。
「コーディネーターが・・・」「コーディネーターに・・・」で違ってくる。
- ・指導員はコーディネーターが学級担任のため指導が不十分と評価したが、会議で学んだことを担任や支援員に伝えているので「有」とした。

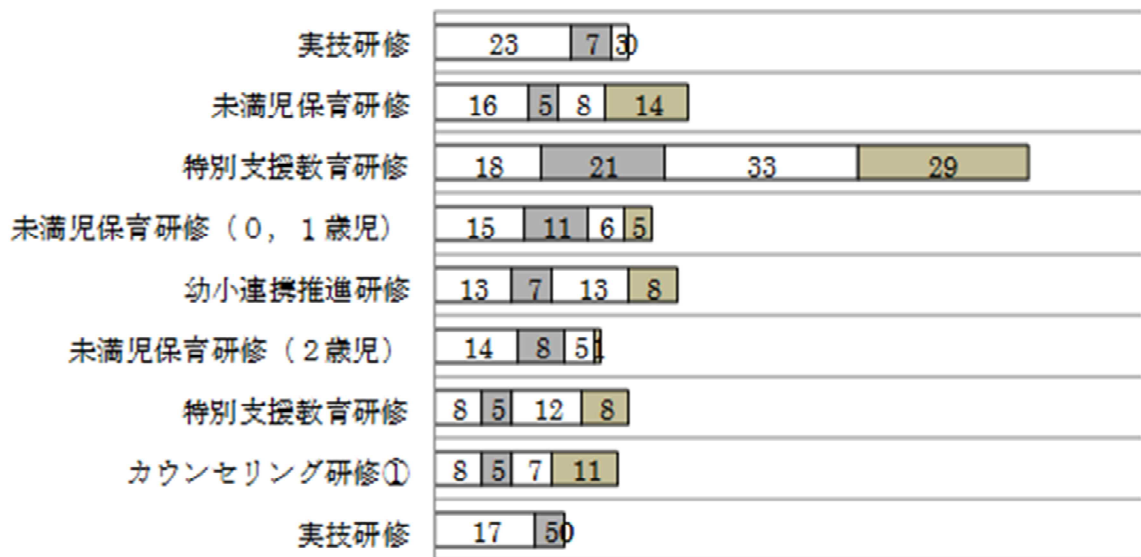
人材育成のための研修体制

<研修評価シート>

講座名	_____		
日 時	平成 年 月 日 () 時 分から 時 分まで		
所 属	_____		
受講者名	_____		
年齢区分	① 20歳代 ② 30歳代 ③ 40歳代 ④ 50歳代以上		
評価基準			
4	3	2	1
そう思う	だいたいそう思う	どちらかというと思わない	そうは思わない
以下から記入をお願いします。			
番 号	評価項目	評 価	
①	講座の内容を理解できた。	4	3 2 1
②	講座の内容を今後の職務に役立てたい。	4	3 2 1
③	本日の講座で学んだことを所属園でどのように活用しますか。		

参加者数 (年齢別)

20歳代 30歳代 40歳代 50歳代以上



幼児教育センターが設置されるまでの間、教育委員会教育研究所の研修の中に保育力アップ講座を設け、運営等に関わって研修会を実施してきた。幼児教育センター設置後は、指導員が企画運営全てを担い実施している。近年は、新規採用教員等の増加に合わせた実践的な研修を多く取り入れながら、ステージに合わせた研修を計画的に実施すると同時に効果的な方法を探っているところである。

研修終了後には、研修評価シートを活用し、そこから見えてくる課題等を分析している。
<研修評価シートの一部抜粋>

【6月18日 つながりあそび】

- ・スキンシップをとることが好きな子どもがクラスにたくさんいるので、日頃の保育中でも積極的に取り入れたい。
- ・自分から声をかけられない子や、うまく話したりできない子がクラスに多いので、このようなつながり遊びを通して、友達との関わりを意図的に増やしていきたい。
- ・日々保育に追われるのではなく、丁寧に一人一人の子どもとのつながりを大切にしたい。

【7月24日 特別支援教育】

- ・支援を要する子や人たちの視線を体験できたことは大変良かった。声の掛け方、物ごとの伝え方など、その子に合った方法で取り入れていきたい。
- ・支援のいる子、そうでない子が共に学べる、楽しめる保育室でありたいと思う。
- ・「必要な助けを使って自分のしたいことができる子」ということで、今まで少しでも自分でできるようにと思っていた援助が、それほど思いつめなくても、その子にあわせて必要な援助(支援)をしていけば良いのだというように、少しゆったりと考えられるようになった。
- ・発達支援の子も通常の子も同じような姿勢で関わることで一人や個ではなく、クラスのみんなを主人公にできるんだという、ワクワクした気持ちになった。
- ・改めて自分を見つめ直し、子ども達への自分の関わり方を振り返ることのできる良い機会になった。

【8月21日未満児保育(0, 1歳児)】

- ・昨年初めて1歳児クラスの担当をして、この時にあの子が私を求めて泣いていて、私は甘やかしすぎていると心配したこともありましたが、これでよかったんだと感じることができました。
- ・赤ちゃんにも思いがあることを心に留め、保育をしていきたいです。
- ・まだ、自力で座ることのできない赤ちゃんを無理に座らせてしまうと姿勢が悪くなってしまうと学ぶことができたので、抱っこをしていない時は腹這いの姿勢にするように気をつけたいと思いました。
- ・9月から0歳児が続けて3名増えるため、紙オムツの件も園で相談してみようと思います。

【11月9日 実技②】

- ・虫や生きものについて、知識不足を感じ、知って飼育することの大切さや、子どもたちと一緒に学びながら体験を通して飼うことの大切さを学びました。
- ・バッタ釣りは初めての経験だったので非常に興味がありました。子ども達が自由に色を塗って作るとおもしろいだろうなと思い、園で実践してみたいと思いました。
- ・子どもたちの現在の生活環境や保護者の姿から考えると、生き物に意図的にふれる機会や場は必要だと思うので、今後もまず私自身が生き物に興味をもち続けたいと思う。
- ・園内で、子どもたちと一緒に小動物について考える時間がつくれるとよいと思います。

- ・カメを飼っている。生き物を「ともに生きる仲間」として迎え入れ生きていくことを子ども達に伝えていきたいです。
- ・つかまえられないと思っていたバッタをつかまえられ、とても楽しかったです。
- ・メダカを飼ってみたところ、家の広さにより亡くなってしまい、自分自身も心が痛んだ経験から、しっかり生き物の飼い方をもっと知っておくべきだったと感じました。
- ・私自身、あまり虫が好きではないので、この職に就くまでは、虫や生き物に触れることがほとんどありませんでした。子ども達に命の大切さを伝える手段として、生き物に関わることも大事だなと改めて感じることができました。
- ・5歳児がずっと育ててきたザリガニを借りて研修に参加しましたが、4歳児でも育てられると思うので、子どもたちと一緒に観察し、命の大切さを感じたいと思います。
- ・命の大切さをどのように伝えるか…難しいなと感じていたが「自分達と同じなんだ」ということを伝えられたらいいのかなと思いました。身近な生き物にもっと親しみをもって触れられるような気がします。
- ・飼育の際に子どもたちへのアイデアの出し方のヒントになった。飼育は命の大切さを知るためだけのものではないことに気付いた。子どもたちが自分で考えられるようにもしていきたいと思った。

【8月28日1・2年次採用教員等研修】

近年、公立園では幼稚園教員等の採用が多いことから、1・2年次採用教員等の体験的な研修を実施することで、2年次教員等が中心に企画運営し、1年次教員等はそれをモデルに次年度研修を企画運営するというサイクルを作り、人材育成に努めている。

他の研修における評価とは別に、下記の5項目で事後レポートの提出を求めている。

- 1 受講前の思い
- 2 受講後の思い
- 3 研修での気づき
- 4 自園で活かしたいこと
- 5 次年度研修への提案

【1・2年次採用教員等研修で指導員が気づいたこと】

- ・指導員は、口出しを控え、見守ることに徹する。また、気づいたことはリーダーに伝え、サブリーダー・班長等で相談し、意思決定させるように努めた結果、主体的に行動する場面が多く見られた。ただ、変更等がある場合、「ほうれんそう」を徹底することができていないことがあった。ただ、受講者は自主的に進めているので、細部の報告は不要と捉えていたのかもしれない。
- ・事前に打ち合せなど指導員で介入しながらも進めたが、時間的なことから（担当者が揃う日の設定が難しい）十分でなかった点も見られた。
(例：班毎のめあてについて、各班に任せていたが、班員全員の意見で決めることはできなかった。)
- ・6人の役員（リーダー・サブリーダー・班長）は全体計画の立案や準備物の手配、役員の事前研修、下見を行う中で、個人差はあるが徐々に役員としての自覚や視点（どうしたら趣旨に合った活動ができるか、研修者同士の関わりが生まれるか等）が意識できるようになっていった。

< 研究主任育成研修の活用度シート >

園名		受講者名	
右記に○印をつけてください。→		研究主任	研究主任以外
研修講座開催日			

以下の項目について、あてはまる番号を右の枠内に入れてください。

1 研修した内容の活用状況についてどうでしたか。(どれか1つだけ選んでください。)	
① すでに活用している。→ 2の質問にお答えください。	
② 活用の仕方を考えているところである。→ 3の質問にお答えください。	
③ 活用する予定がない。→ 4の質問にお答えください。	
(自由記述：上記を具体的に記入してください。)	
2 どのように活用しましたか。(複数可)	
① 研修内容を自園の園内研の中で実践した。	
② 研修内容を園内会議で共有した。	
③ 研修内容の活用方法について検討をした。	
④ その他 ()	
(自由記述：上記を具体的に記入してください。)	
3 どのように活用しようと考えますか。(複数可)	
① 研修内容を自園の園内研で実践しようと考えている。	
② 研修内容を園内会議で共有したいと考えている。	
③ 研修内容の活用方法について検討をしたいと考えている。	
④ その他 ()	
(自由記述：上記を具体的に記入してください。)	
4 その理由は何故ですか。(複数可)	
① 活用できる内容ではなかった。	
② 活用する機会がない。	
③ 園内の協力を得られそうにない。	
④ すでに実施していることばかりであった。	
⑤ その他 ()	
(自由記述：上記を具体的に記入してください。)	

各園の園内研究の中核を担う研究主任は、他の研修とは別に捉え、研究主任自身の意識の変容とその後の育成状況を確認するためのものであるため、「研修の評価シート」とは別の評価の視点を設定し確認を進めた。

研究主任は、園内での人事で決定されるものであり、その任命の仕方にも意識を変革させる機動力となることがわかった。また、研究主任自身の意識が変わったことで、園内での研究主任としての位置付けが明確になり、業務が進みやすくなった。

研究主任育成研修で、協議の場面を参観することで、具体的な園内研究の運営をイメージすることができ、さらに具体的な手法を知ったことで、研修後各園で実践につながっていることも大きな成果であったといえる。

このように研究主任の育成が、園の研究への意欲の高まりにつながり、管理職の意識を変えることにもつながっている。

< 研修会実施一覧 >
(平成28年度)

研修名	日	内容	講師		参加人数
保育力アップ第1回	7月7日	認定こども園の運営	滋賀文教短大教授	大橋 英子	46
保育力アップ第2回	7月21日	自然	森と水政策課	丸橋 裕一	38
保育力アップ第3回	8月23日	特別支援	発達支援センター 臨床心理士	田中 佑光 増尾 著子 村田 渚沙	121
保育力アップ第4回	10月13日	特別支援	発達支援センター 臨床心理士	上記に同じ	43
保育力アップ第5回	1月27日	運動遊び	帝京平成大学現在ライフ 学部児童学科専任講師	石井 友光	61
未満児保育	2月21日	VTR研修・講演	元保育所主任	佐々木寛子	34
安全な保育	7月1日	リスクマネジメント	NPO法人保育の安全研究 教育センター	掛札 逸美	102
実技研修	8月17日	リトミック	リトミック研究センター	津田 悦子	36
実技研修	10月26日	音楽リズム	滋賀短期大学教授	柚木たまみ	36
保育内容	11月29日	保育内容	東京家政大学教授	増田まゆみ	91
実技研修	12月9日	絵本の読み聞かせ	湖東図書館職員	根岸あゆみ	28

(平成29年度)

研修名	日	内容(予定)	講師		参加人数
保育力アップ第1回	6月7日	自然と学ぶ(飼育 の仕方)	環境レイカーズ代表	島川 武治	36
保育力アップ第2回	7月26日	発達支援	発達支援センター 臨床心理士	浅田 陽子	112
保育力アップ第3回	7月28日	自然体験	河辺いきものの森	丸橋 裕一	35
保育力アップ第4回	9月6日	発達支援	発達支援センター 臨床心理士	浅田 陽子	42
保育力アップ第5回	1月11日	リズム遊び	特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫	榎本 英樹	37
園内研究主任研修 (演習)	5月16日	研究協議見学	能登川第一幼稚園		8
	5月26日	意見交換会			8
園内研究主任研修 (演習)	3月6日	研究協議見学	能登川第一幼稚園		5
	3月7日	意見交換会	市原幼稚園		6
	3月8日		五個荘あさひ幼児園		5
	3月9日		八日市幼稚園		5
未満児保育	2月14日	VTR研修・講演	元保育所主任	佐々木寛子	51
特別支援教育	10月17日	発達支援	国立大学法人滋賀大学教 育学部附属特別支援学校 副校長	井上 照美	39

地域移動講座	10月24日	表現（絵画）	滋賀短期大学教授	手良村昭子	41
人権保育	10月20日	講演会	奈良県人権保育研究会会長	大寺 和男	57
危機管理	12月 4日	リスクマネジメント	NPO法人保育の安全研究 教育センター	掛札 逸見	47
保育内容	1月30日	要領等改訂 (改定)	名古屋学院大学 ヒューマンケア学部 子どもケア学科教授	津金美智子	90
危機管理	3月16日	リスクマネジメント	NPO法人保育の安全研究 教育センター	掛札 逸見	43

(平成30年度)

研修名	日	内容	講 師		参加人数
研究主任育成研修 (連続講座①)	9月 6日	講義（保育記録等）	相愛大学人間発達学部 子ども発達学科教授	中井清津子	40
研究主任育成研修 (連続講座②)	6月25日	講義 (園内研究主題設定等)	相愛大学人間発達学部 子ども発達学科教授	中井清津子	37
園内研究主任研修 (演習)	6月 4日 6月 6日 6月 8日	研究協議見学 意見交換会	八日市幼稚園 ひまわり幼児園 愛東あいあい幼稚園		17 22 14
幼小連携推進研修	9月 3日	講演 (幼児期と学校をつなぐ)	福井大学教職大学院教授	松木 健一	41
未満児保育①	8月21日 9月 5日	講義（0,1歳児） 講義（2歳児）	元保育所主任	佐々木寛子	49 32
未満児保育②	7月17日	講演	同志社大学赤ちゃん学 研究センター教授	小西 行郎	52
特別支援教育研修①	7月24日	講義（こども理解と支援 について）	発達支援センター 心理士	越後 満喜	97
特別支援教育研修②	11月 1日	講義 (ケース会議の進め方)	能登川東小学校校長	井上 照美	44
地域移動講座	12月18日	講義・実技 (身近なもので作る制作 遊び)	滋賀短期大学副学長	深尾 秀一	27
実技研修①	6月18日	実技研修	つながり遊び・うた 研究所	長尾 高明	延 48
実技研修②	11月 9日	講義・演習 (秋冬の生き物と保育)	環境レイカーズ代表	島川 武治	28
カウンセリング研修①	11月 7日	講義・演習	聖泉大学副学長	高橋 啓子	39
カウンセリング研修②	12月 6日	講義・演習	聖泉大学副学長	高橋 啓子	36

年間園巡回状況(平成29年度・平成30年度)

市内の園巡回は、1市6町の合併を受けて、合併前の各地域における保育文化をはじめ、様々な事項について調整を図ることから始まった。中でも、長年培ったそれぞれの保育文化については、子どもの視点に立って望ましい環境整備を図ることが必要となった。

平成29年度は、幼児教育センター設置に向けた取組のため、指導員5名による園巡回を実施した。また、近年の待機児童解消を目的とした小規模保育事業所等についても同じ市内の子どもの保育の質の保障から、巡回の希望があれば対象とすることとした。

(平成29年度)

巡回目的		施設種別 /施設数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
園内研究	公立	幼	10	12	3	7	7	8	3	9	6	4	2	12	3
		保	3	3		1			1	1	2	1		3	
		認	9	9	3	3	3	2	1	4	5	5	5	13	1
		他				1	2							2	—
	私立	保	6	1	2						2				
		認	3												
新規採用 職員 研修	公立	幼	1		1	1	2			2			1		
		保	2		1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	
		認	4			3	4	4		5	1	2	5		1
幼小中 連携	公立	幼	4		4	3	4		4	3	2	2		3	3
		保	2		2	2	1	2	2	2	1	1	1	2	1
		認	5		5	4	5	3	5	6	5	4	3	3	4
	私立	保	1										2		1
		認	1										3		
発 達 支 援	公立	幼	10	3	7	1			5	7	1	5	2	3	
		保	3		3			3		2		3		1	
		認	9		7	2	2		3	10		6	4	7	
	私立	保	6		3			4	1	3	1	5	3	3	
		認	3		1		1	1	1	1		2	2	1	
		他	3	2											

*施設数に対して延べ数で標記しているため、施設数を上回る場合がある。

*新任研は県指導を除く市独自の巡回数としている。

*新任研は私立を対象としていない。

平成30年度は、幼児教育センター設置を受けて、所長を含む4名で園巡回を実施した。特に、訪問目的の幼小連携においては、「モデル指定校区」に関する訪問に代えたことで前年度比較において、巡回数が減っていることになる。

(平成30年度)

巡回目的	施設種別 /施設数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
園内研究	公立	幼	9	10	5	8	6	3	2	6	2	5	2	3
		保	2	2					1	1		1		
		認	10	9	7	5		2	3	6	3	2	1	
		他	1	1					1					
	私立	保	5					5						
		認	4	1				4						
新規採用職員研修	公立	幼	1		1	1		1	1					
		保	2			1		1	1	2		1		
		認	7		1	7		1	3	6	3	2	1	
幼小中連携	公立	幼	0							1				
		保	0											
		認	1						1	2				
	私立	保	0											
	認	1			1									
発達支援	公立	幼	9	1	3	1		1	6	3	4	1		
		保	2					1		1		2		
		認	10		7	2		6	4	6	5	6		
	私立	保	5		5			4	1	2		3		
		認	4		4	1		2	1		1	1		
		他	5											

(2・3月は予定)

*園内研究、発達支援には小規模保育事業所を「他」で標記している。

初年度巡回・年度末巡回（各1回）は公立園全てを巡回している。

県初任者研修園訪問（1回）を含んでいる。

*新規採用職員研修の施設は、対象者がいる園の数であり、県指導を除く市独自の訪問回数である。

*新規採用職員研修は私立を対象としていない。

*幼小中連携の施設数はモデル指定校区のみを対象としている。

東近江市幼児教育のあり方検討会 委員名簿

(平成28年度)

	所属・職名	氏名
1	びわこ学院大学 准教授 (委員長)	奥田 愛子
2	公立認定こども園長会 会長 (副委員長)	森川 眞理子
3	公立保育園長会 会長	澤井 美幸
4	公立幼稚園長会 会長	高田 幸好
5	私立保育園代表 園長	帖佐 恵美子
6	教育委員会教育研究所 所長	中野 正堂
7	教育委員会事務局学校教育課 主幹 (併) 健康福祉部発達支援センター 主幹	中島 純子
8	教育委員会事務局学校教育課 指導主事	野田 有香
9	こども未来部こども家庭課主幹	猪田 誠

(平成29年度)

	所属・職名	氏名
1	びわこ学院大学 准教授 (委員長)	奥田 愛子
2	公立園長会 会長 (副委員長)	中澤 智子
3	公立園長会 副会長	森谷 えみ子
4	公立園長会 副会長	貝沼 淳子
5	私立保育園代表 園長	帖佐 恵美子
6	教育委員会教育研究所 所長	中野 正堂
7	教育委員会事務局学校教育課 主幹 (併) 健康福祉部発達支援センター 主幹	中島 純子
8	教育委員会事務局学校教育課 指導主事	小椋 文子
9	こども未来部幼児課子育て支援総合センター所長	三原 牧子

(平成30年度)

	所属・職名	氏名
1	びわこ学院大学 教授 (委員長)	奥田 愛子
2	公立園長会 会長 (副委員長)	加藤 ひとみ
3	公立園長会 副会長	今井 弘美
4	公立園長会 副会長	雁瀬 貴子
5	私立保育園代表園長	文室 賢治
6	教育委員会教育研究所 所長	國領 順子
7	教育委員会事務局学校教育課 主幹 (併) 健康福祉部発達支援センター 主幹	中島 純子
8	教育委員会事務局学校教育課 係長	小椋 文子
9	こども未来部子育て支援課 参事 (兼) 子育て支援センター所長	三原 牧子

